

## 日本の城とは？

日本の巨大な城は、戦国時代（1467-1568）の産物である。1336年から続いた足利幕府の崩壊に始まり、その後数十年にわたり、さまざまな勢力が日本の支配権をめぐって争った。

戦国時代の城の特徴として、天守閣があり、そこを拠点に武将たちが領地を支配した。この時期までにすでに数百年にわたって城郭は存在していたが、初期の「城」は山の上に築かれ、土塁や木柵で囲まれているのが一般的であった。山上の城は防御しやすいが、農地や街道から遠く、行政の中心地としては不向きであった。1500年代初頭から、城は山ではなく丘の上に築かれるようになり、やがて平地にも築かれるようになった。この城郭建築の黄金時代には、日本の城の象徴である天守閣が誕生した。

松本城は16世紀後半に築城され、新旧の技術が混在した城であった。大天守の階層は、後世の城郭によく似ている。しかし、天守閣の全体的なデザインは、天守の上に天守を積み重ねたようなもので、より初期の城の特徴を示している。このように、松本城は城郭設計の過渡期を代表する城である。